

第4回 松山駅周辺まちづくり審議会 《概要録》

開催日時 平成25年8月20日（火）
午後1時30分～午後4時
場所 KH三番町プレイス3階 第1会議室

午後1時30分 開会

《挨拶》

【松本開発・建築担当部長】

本市は、松山駅周辺地区を県都松山の陸の玄関口にふさわしい広域交流拠点として、駅周辺に拠点施設を誘導し、賑わいの創出につなげるとともに、駅西地区の活性化と安全で快適な住環境に配慮したまちづくりを進めて参りたいと考えている。

昨年度の審議会では、当地区のまちづくりを先導する重要な構想のひとつである車両基地跡地利用について議論いただき、中間報告を取りまとめていただいた。今年度は跡地利用基本構想のとりまとめと、まちづくりの全般構想についても審議をお願いしたい。

その他にも来年度にかけて、拠点地区の「まちづくりガイドライン」や「駅前広場等の整備基本計画」などを順次、策定し、平成27年度以降の駅前広場などの実施設計着手につなげる重要な時期であるので、引き続き熱心なるご審議をよろしくお願いしたい。

【柏谷会長】

外観だけでは、何も変わっていないように思われるかもしれないが、駅の西側では土地区画整理の話合いが粛々と進められており、県事業に関わる用地の取得についても営々と努力をされている。また、北伊予駅周辺での貨物駅の移転に伴う工事も行われており、当事業は着々と進んでいる。

まだまだ多くの課題があるが、次の世代、また次の孫の世代に、松山市発展の夢を託せるようなまちづくりを進めたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

《議題1. 事業の進捗状況について》

【事務局説明】

(松山駅周辺の将来像について、VR（ビデオ）を上映)

(1) 関連事業の進捗状況について

・愛媛県による連続立体交差事業は、伊予市・松前町に移転する新車両基地・貨物駅の用地買収をほぼ終え、埋蔵文化財調査を行っている。また、行き違い線区間について、市坪地区では石手川橋りょうの架け替えのための仮線工事が進んでおり、土居田地区では本村踏切で仮踏切を設置し水路改修工事を行っている状況である。

- ・松山市による土地区画整理事業は、去年 3 月に仮換地指定を行い、一般地権者からの先行買収も終え、現在、建物移転協議を進めながら街区の造成工事等を行っている。

(2) 昨年度各組織の検討内容について

- ・「松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会」は昨年度 2 回開催。県・市・JR がリードしながら地区の特性等を調査検討し、地区全体として共通理解を深め、共同体意識の醸成をはかり、平成 26 年度末を目標に「まちづくりガイドライン」を策定し、一体的なまちづくりの実現を目指す。
- ・「松山駅周辺まちづくり審議会」は昨年度 3 回開催。主に車両基地跡地の利用について検討いただき、「基本理念」「基本方針」「主要機能」等の中間報告をいただいた。

《議題 2. 今年度のまちづくりの取り組みについて》

(1) 松山駅周辺まちづくり整備計画策定業務について

検討① まちづくりシナリオ作成について

【事務局説明】

- ・当業務内容は、『松山駅周辺路面電車延伸計画等に関する基礎調査業務』と連携し、まちづくりに関する各事業が具体的設計等に入る前に必要な構想、計画、ガイドライン等を市民参画のもと、当審議会等で検討し策定していくことを目的とする。
- ・まちづくりシナリオとは、まちづくりの「将来像」と個別具体的な「施設整備計画」等の二つをつなぐものであり、松山駅周辺地区の具体的な目標を明確にし、その実現に向けた総合的なまちづくり戦略である。
- ・まちづくりシナリオ作成にあたっては、「各エリアの目標を立てていく」、「目標（構想）や戦略は市民にわかりやすいものとする」、「目標（構想）段階から市民への情報発信と参画促進を図る」という 3 つの考え方のもと作成したい。

【A委員】

- ・路面電車の延伸は、まちづくり全体から見てどういう位置付けの計画になっているのか。

【事務局】

- ・鉄道高架することによって、公共交通で重要な役割を果たす路面電車が初めて松山の西側の地区に入ることができる。環状線まで延長する路面電車を活かしたまちづくりを進めたい。

【A委員】

- ・路面電車と道路とのつながりなど、何十年先のことまで考えて、どのようなかたちになるのかが見えない。

【事務局】

- ・コンパクトで住みやすいまちづくりに向けて、今できることと将来こうあって欲しいということをシナリオの中に込めながら、今後、シナリオに基づいて具体的な路面電車の

延伸、路面電車が整備される駅西南江戸線の整備、終点の駅の整備を具体的な計画の中に落とし込んでいこうと考えている。

【A委員】

- ・大きな青写真があって、順番に個々の具体的な例を作っていくと思っていたのだが、全体的な青写真は作っていないのか。

【事務局】

- ・全体的なベースとなる青写真は過去に作っているが、具体的にまちづくりが進む中で新たに必要のこと、変えていかないといけないことが出てきていると思われる。改めて過去の調査なども踏まえたうえで、まちづくりシナリオやより具体的な基本計画を作り、平成27年度以降の実施設計に活かしていきたい。

【会長】

- ・路面電車の延伸後、松山市全体の中で道路計画や電車の計画等について考えていく可能性はあると思うが、今は松山駅周辺地区について検討していくことにしたい。

【A委員】

- ・駅の西口に駐車場が必要ではないか。

【事務局】

- ・路面電車が西側に延長されるが、それに対する交通需要や公共交通の乗り換え利便性、駐車場の台数や広さの需要等の基本的な調査は「松山駅周辺路面電車延伸計画等に関する基礎調査業務」で行う。その調査データをもとに推進協議会の下部組織である幹事会等で検討したうえで事務局案を作成し、審議会でも意見をいただく。

【B委員】

- ・まちづくりシナリオの範囲は、県の用地、JRの用地、民間の用地が含まれる区画整理区域内のことなのか。

【事務局】

- ・今回のまちづくりのベースは県の鉄道高架化と本市が行う土地区画整理と路面電車の延伸である。ただ、その事業効果を単にそれらの効果に終わることなく、周辺へ波及させることが重要である。
- ・この審議会では跡地の検討だけではなく、松山駅周辺地区のまちづくり全体構想に関することも意見をいただきたい。

【A委員】

- ・まちづくりのシナリオで、「松山らしさ」という他にない特徴を作りたい。一つのことの特化した特色のある通りや広場等にしたら面白いと思う。

【C委員】

- ・まちづくりのシナリオを作成するのは、笑顔あふれるまちづくり推進協議会か。

【事務局】

- ・はい、そこで主に検討し、市が作成する。

【C委員】

- ・シナリオ作成に対して、審議会は何か提案をしていくということによいのか。

【事務局】

- ・そのとおりである。

【C委員】

- ・提案ということであれば、コンパクトシティということ視野に入れると、路面電車の延伸はよい。
- ・駐車場を駅周辺に作ると、そこまで車が行ってしまうので、延伸の終点である環状線に大きい駐車場を作って、そこから電車に乗るというスタイルを定着させることができたらよい。

検討② 車両基地跡地の利用に関する基本構想の検討に必要な基礎データ等について

【事務局説明】

- ・基本構想の骨子は、「1. 基本構想の背景」、「2. 基本理念（施設コンセプト）」、「3. 基本方針」、「4. 基本機能構成」、「5. 基本施設構成」の5つを考えている。
- ・検討に必要な基礎データとして「立地条件」、「市民ニーズ」、「企業ニーズ」、「周辺施設状況」、「先進事例」などを考えており、それらを集めるために、「市民ニーズ」については、アンケート、ワークショップなど、「企業ニーズ」については、アンケートやヒアリングの実施を予定している。

【D委員】

- ・現在の利用実態をどう把握すべきかが重要であるが、アンケートは質問の仕方や設定する答えによって、結果が違ってくるので難しい。むしろ、実際に活動していて何が不足しているのか、どのような活動をしているのかという具体的なヒアリング調査の方が価値があるのではないか。
- ・審議会では、委員から他市の先進事例をいろいろ出してもらうことも重要である。

【E委員】

- ・鉄道高架や駅を作り直したりする事例はたくさんある。歴史的に鉄道は、煙が多い迷惑施設だったので、少し外れたところにあり、都市が拡張していた時代は駅の周辺は一等地だったが、今や都市は縮小していく傾向にあるので、期待するほど土地活用がされないケースがある。他都市の先進事例も参考にシナリオを描く必要がある。

【F委員】

- ・市民ニーズに関連して、完成が何年も後になるので、現在活動している方々のニーズがすぐ反映できるわけではないが、検討している段階で情報共有しながら考えていき、同時進行で作っていくのがとてもよいことではないかと思う。

【G委員】

- ・基礎データにおいて、アンケートはその内容によってかなり不安定な結果が出る。市民

ニーズにしても、企業ニーズにしてもそれぞれの分野の商業統計や市民の文化活動や教育事業等、長年統計が取られているようなもので代替することが可能ではないか。既存の統計資料にはない何か統計が欲しいということなのか。

- ・松山駅周辺地区に望ましくないような施設を、松山市や愛媛県が阻止できる力を発揮することができるのか。そういった最終的な力が協議会にあるのか。

【事務局】

- ・統計データ等、基本的なデータは集める。その上で、直接利用する松山市民にアンケートやヒアリングを予定している。
- ・望ましいまちづくりに対して強力な指導ができるのかについては、各地権者は、都市計画法や建築基準法のもとで建物を建てていく。その地区をより一体的なまちとするべきとの地権者の合意ができれば、地区計画や建築協定というようなさらなる法的制限を加えることができる。笑顔あふれるまちづくり推進協議会では、平成26年度末にガイドラインをまとめようとしている。その後、法的な制限に移行できるかどうかは、さらに強い制限が必要だと地権者の方が合意するかどうかということになる。松山市はガイドラインを作成し、それが法的なものに移るよう協力をお願いし、望ましいまちづくりを目指していこうと考えている。審議会からも意見をいただく機会を設けていきたい。

【会長】

- ・ガイドラインはあまりにも理想に走りすぎでは、なかなか合意に至らないだろうが、方向性をまとめていき、最終的にはお願いのようなものになるかもしれないが、気持ちを高めていくということで少しでも実現につながると、そう信じてやっていければよいと思う。

【D委員】

- ・景観に関わることで、松山市は景観条例に基づくものはあるのか。

【事務局】

- ・地区ごとにいくつか景観計画区域がある。

【D委員】

- ・ここは対象外か。

【事務局】

- ・まちづくりシナリオで、当地区も対象とすべきではないかということを考えている。

【D委員】

- ・広告物の規制はここにあった規制かどうか問題である。ここにあった規制を作るには、この地区を対象とした地区計画を作ればより厳しくできる。その前段がガイドラインであり、ガイドラインの中でここは法的規制をしようという合意ができればよい。

【事務局】

- ・まちづくりガイドラインを策定した後に、景観計画や地区計画等の法定の計画に移るようなことを検討していきたいと考えている。

【C委員】

- ・データは確かに難しいが、簡易な地域経済統計であれば、簡単に取れる。
- ・作ったものを使っていくという発想と、みんなで作っていく、これから利用していくことで何かできていくという考え方がある。市は整備方針を明確にして欲しい。

検討③ ホールの先行検討について

【事務局説明】

- ・今年度は、昨年度検討していただいた各主要機能それぞれの中心的施設をどうするかについて審議会としてとりまとめていただきたい。
- ・各機能それぞれの中心施設の検討において、事務局では昨年度各委員から個別提案された施設例のうち「ホール」をどう捉え、どう扱うかが重要だと考えている。
- ・市議会、夢工房、アンケートなど過去の調査でも、「市民会館」、あるいは「ホール」が必要でないかという意見が多く寄せられている。
- ・駅周辺に「市民会館」という意見でも、「市民会館」そのものの再現でなく、中心機能の「ホール」の再現を望んでいるのでないかと考えられる。
- ・跡地の複合施設の中にホールが必要となれば、規模的にも機能的にも施設の核となることから、先行してホールの検討を行う必要があると考える。

【会長】

- ・市民会館になると1500から2000席規模になるが、審議会での議論では市民が気軽に使える200席くらいのホールというようなイメージだったと思う。
- ・様々な機能を車両基地跡地に作りたいと考え、その機能のひとつにホールがあった。
- ・大きいホールを作るとそれ以外のものが小さくならざるを得ないということでよいか、あるいはホールは小さくても良いのか、さまざまな提案もあり得るかもしれない。

【G委員】

- ・昨年度の検討では、市民の日常活動を反映してホールが活用されるというようなものから1000人規模のホールという提案もあった。

【D委員】

- ・ホールはどのくらい入るかというボリュームの問題と、どんなホールにするかという質の問題がある。ボリュームの問題は現在のホールがどのくらいの大きさか、少し将来性も含んで使えるのか、また、その他のホールとの役割分担だと思う。昨年度審議会の議論では、役割分担を考えたいうえであまり大きくないホールを作ろうという提案が多かったのかもしれない。
- ・量の問題は、松山市全体のホールのボリュームの分布図を見て検討すれば大体決まってくるのではないかと。
- ・ホールの質については難しい問題である。

【C委員】

- ・「必要なデータ」「必要な手順」を踏んだ上で大きいホールが欲しいということであれば作れば良いと思う。そのための必要なデータの取り方は、現在活動している団体へのヒアリングが重要である。松山市におけるコンサートやイベントの公演数や集客数、ホールを作って採算はとれるのか等を調べていく必要がある。

【F委員】

- ・実際に利用する方から小さいホールと大きいホールを繋ぐ200席くらいが必要という声はある。
- ・何年後かにできるようならそれを見越して、活動団体を作り、活動をする人を育てるということもできると思う。

【H委員】

- ・近くにコミセンのホールがあるので、それほど大きなホールは必要ないと考えている。
- ・要はホールの使用目的だと思うが、何にホールを使うのか、どのような範囲で使っていくのか、現在の市民会館にどのような機能的問題点があるのか等を出していただいたらよいと思う。

【会長】

- ・事務局の方から議会、みんなの夢工房、シンポジウムのアンケート等での意見等の背景について説明していただきたい。

【事務局】

- ・平成21年度市議会の都市活性化調査特別委員会では、中心市街地全体の活性化をテーマに議論された。その中で現在、市民会館は堀之内にあり史跡の指定がされているため現位置での建て替えが難しいという法的な制約がある中で、それに代わるものとして検討したらどうかという案が背景としてあった。
- ・みんなのまつやま夢工房は、平成16年度に公募の市民の方々に参画いただいてワークショップ形式でグループワークをし、松山駅周辺地区のキーワードとして交流というような方向の中で施設としては市民会館の提案がなされた。
- ・シンポジウムのアンケートは、昨年今年と2回、松山駅周辺のまちづくりをテーマにシンポジウムを開催し来場者アンケートを行った。松山駅周辺にどういう機能が必要かという問いにホールという回答が比較的多かったものである。

【会長】

- ・今の市民会館と同じようなものが欲しいのか、あるいは違うものの方が良いのかという議論があるかと思う。

【B委員】

- ・今、市民会館は修復をしているのか。

【事務局】

- ・今年1年かけて、耐震補強工事をしている。

【B委員】

- ・昔、カラヤンがとても音響がいいと絶賛したと聞いたことがある。それだけ良いホールであることを考えると、少なくとも音楽系で利用するのであれば市民会館は良い施設だと考える。
- ・松山駅から市内電車二駅三駅の距離に市民会館があるということを考えると、多いか少ないかはデータや希望を勘案して決めるとして、まったく同じ規模である必要はないように思う。

【事務局】

- ・現在行っている市民会館の耐震補強工事は、あくまで耐震補強であって延命措置ではない。平成32年度、土地区画整理事業が完成する時期に築後55年となり、一般には鉄筋コンクリート建物の耐用年数とされる時期を迎える。市民会館がなくなっても市民活動が満足にできるのかということが、ホールを検討する重要な要素になると思う。
- ・市民会館の2000席の大ホール、700席の中ホールがなくなるわけで、大きなものはいらないとされているが、他都市と比較して、松山市全体として良いのかどうかについて検討をしていただきたい。ホールの有無や規模については、車両基地跡地の施設全体を考えるうえで大きなウェイトを占めているので、先行してホールについて資料を提供するので考えていただきたいが、よろしいか。

【I委員】

- ・無くなれば困るというのは間違いないと思うが、ここに作るのが絶対必要かと言われると変わってくると思う。市民会館がなくなってしまうかもしれないということが最初の議論になっていなかったもので、小規模を考えてしまったのだと思う。

【会長】

- ・去年は自由に考えて、割と使いやすい小ぶりのホールというのが皆さんの意見として出てきた。しかし、市議会の特別委員会やみんなの松山夢工房、シンポジウムでのアンケート等違った考え方もあるということが今の状況である。

【B委員】

- ・市民会館の代わりに作るホールをここに作るというのは市の方では決定しているのか、その方針でいきたいということなのか。

【事務局】

- ・決定はしていない。ただ、現在の市民会館がいずれ耐用年数を迎えばそこでの再建はできない。その際、市民会館のようなホール施設が必要となると、施設が作れる用地は中心市街地には、今のところ車両基地跡地しかない。皆さんの意見を聴きながら、市全体を視野に他施設も含め今後の利用及び維持管理を考慮し、最終的にどのような方向が良いか決めていかないといけない。

【会長】

- ・自由に考えると、去年の答えだったということである。実際は、自由には考えられにくいという状況があって、非常に難しい判断ではある。

【H委員】

- ・この際ちょうど土地はあることだし、市民会館ももう寿命が来るということであれば、市民会館に代わる新しい機能を持った市民会館を作る。それに付随して、前に私たちが話した多目的に活用できる施設を建設するという方向で固めた方がよいのではないかと。

【会長】

- ・現在の市民会館と同じものが車両基地跡地にできるというのではなく、大ホール等の代わりがないと困るものを入れて、その他は審議会で考えてきたようなさまざまな機能を盛り込んで、スペースを豊かなものに使うというのも一つの方法かもしれない。

【D委員】

- ・この土地は決して広くない。だから、去年度考えたコンセプトや、ある機能に大規模施設を入れたら、難しいと思う。それはある意味では基本的な考え方の大変更にならざるを得ない。松山市の大規模なコンサートに供する施設が将来的にどのくらいで良いのかということをもう少し見極める必要がある。そういった意味では、検討材料として置いておき、今の段階では去年を活かすかたちで検討するのも素直かなという気はする。

【会長】

- ・今日ここで結論を出さないといけないのか。

【事務局】

- ・今後の土地利用を考えていくうえで、今までのさまざまな提言やアンケートの結果を見てもホールは機能として出てくる。まず、ホールは施設の中に必要かどうか、どこかの時点でおさえないと他の用途を考える時に難しい。ホールをどれくらいの規模や用途で使うのかということと先行して施設全体の構成を考えていきたいが、それでよろしいか。
- ・よいとなれば、次回以降、ホールのデータをもとにホールが必要かどうか、どのくらいの規模か等を固めていただいて、並行して他の機能も考えていただきたい。

【会長】

- ・ホールとして2000席程度ということにはこだわらないということか。

【事務局】

- ・県の施設に1000席と3000席があり市民会館の大ホールはその中間の施設である。他都市の事例調査では1000席から1500席が全国的には一番多い。今、興行的には2000人を集めるイベントは少なく、それ以上になると県武道館のように5000、6000人収容できる施設が必要と聞いているが、コミセンと県文が1000席とその上3000席となった場合、その中間はなくていいのかは疑問が残る。
- ・これからの時代を見据えて、新しい時代のニーズに合ったようなホールが現在のほかの施設で満たされるのか検討していきたい。

【J委員】

- ・例えば図面等で、こういう敷地の中にこう配置して、マックスではこれくらい入りますよというシミュレーションはこの会の中で見せていただけなのか。

【事務局】

- ・皆さんの去年の案を実際に建築家、専門家を入れてボリューム的にどれくらいの施設になるのか、整理して示す予定である。敷地的には、建ぺい率80%、容積率500%、周りの道路幅が30mだから、予算が許せばかなり大きなものができる。事務局の案も示しながら検討していただこうと考えている。

【会長】

- ・昨年までの流れと今日の話はかなり違っているので、皆さんも戸惑いがある。ホールの話は施設を検討する上でかなり大事な話である。この話は次回に持ち越していいか、あるいはある程度の規模のホールを入れるという前提で考えていくことを今日ここで決めないといけないのか。

【事務局】

- ・ホールを先行検討する方向性でよいかどうかということで、ホールが必要という結論を求めているわけではない。

【C委員】

- ・松山市の政策の方向性や今後の見通し等を提示していただいたほうがよいのではないか。

【事務局】

- ・市民会館、コミセン、県文の各ホールの利用率や利用状況等の調査を行っており、今後、調査データに対し審議会としての意見をいただきたい。また、市は様々なところで意見を聴き検討していきたい。その結果、市民会館のホールに相当する施設が絶対に必要だと言うことであれば、建替えないといけない。

【会長】

- ・前提条件無く、フリーにこの会で考えてくださいということであれば去年の答えになる。今年度は、実情も考慮しながら、ホールの必要性について代替案を含めて市の方でいくつか案を出して検討していくということによいか。

(反対意見なし)

「松山駅西地区まちづくりルールの策定」の策定について

【事務局説明】

- ・「松山駅西地区まちづくりルールの策定」に向けて、昨年度は勉強会を3回行い、地権者の方全員を対象に2月にアンケートを実施した。平成25年度は昨年度の結果をもとに事務局案も提示しながら勉強会で検討を重ねてまちづくりルールの素案を作成し、アンケートを行い地元地権者の意見を反映させて、地区のまちづくりルールの策定を目指す。

検討④ まちづくり全体構想における市民参画イベントについて

検討⑤ 車両基地跡地の利用に関する検討段階での市民参画イベントについて

【事務局説明】

- ・「まちづくり全体構想検討過程における市民参画のイメージ」について、地区の将来については市民の皆さんに構想計画段階から参画していただき、まちづくりを進めていきたいと考えている。そこで、オール松山市で一緒にまちづくりを進める気運を高めるようなイベントを行いたい。

【会長】

- ・イベント案を少し説明していただきたい。

【事務局説明】

- ・小中学生は審議会やワークショップに参加し難いため、「小中学校への出前講座」を積極的に行い、まちづくりについて説明をする機会を設けていきたい。
- ・「松山駅周辺の未来新聞をつくろう！」というワークショップ案は、市民を対象に4人から6人のグループに分かれてまち開きが行われたことを想定し、未来新聞として意見をまとめるものである。
- ・「松山駅の未来を考えよう in 学祭」とは、大学祭でブースを作り、まちづくりを考えていくというイベント案である。
- ・「景観について考えよう！」という案は、セミナー（講義）形式で良好な景観形成を図る地区内の地権者を対象にして、基本的な知識を深める機会を設けるものである。
- ・検討4と検討5で市民参画のイベントを二つに分けたのは、目的がそれぞれ異なるからである。「車両基地跡地の利用に関する市民参画」は、実際に利用される方がどのようなものを望んでいるのかを市民参画のもと検討していくことが目的である。「まちづくり全体構想における市民参画イベント」は、松山駅周辺整備事業に関心を持って、構想の段階で市民参画を図ることを目的としており、将来の住民主体によるエリアマネジメントに発展できればと市は考えている。

【A委員】

- ・松山は観光地なので、観光客を巻き込んだイベントが良いのではないかと。体験型で、誰でも参加でき、毎年行って何回も参加できる、記念になるようなイベントが良い。
- ・具体的には、菊間瓦や砥部焼の体験型のイベントを考えた。実際に作って、ネームプレート等自分が作ったことがわかるような書き込みをし、松山市の駅舎の一部にはめ込む等作ったものを松山市に置いて帰るのが良いのではないかと。

【J委員】

- ・市民が一体となってスポーツや武道を応援できるようなサテライトの場所や、球団と一緒に松山市を盛り上げていけるような活動状況を伝える場所、球団の人が触れ合う場所を設置すれば、スポーツの松山や愛媛として面白いと思う。

【C委員】

- ・検討されているイベントはどこでする予定なのか。

【事務局】

- ・小中学校の出前講座は小中学校で行う。他のワークショップ等は、市の会議室等で市民の方に来ていただいで行いたい。

【C委員】

- ・松山市の中で三津浜のバザール等をやっている人たちに声をかけてイベントをやってもらったらどうか。イベントをやることで、さまざまな人がこの土地があることに気づく。イベント仲間、主催者、イベントリーダーのネットワークはかなりのものなので、ホールの需要や、こういう場所があったら、どんな利用がしたいのか等の意見が聞ける可能性があるのではないかと。

【F委員】

- ・具現化するという前提があれば、すごく興味を持って参加されると思う。イベントの最初の説明は、何年にこういう形ができるといったワークショップの前説明のようなことはできるか。

【事務局】

- ・車両基地跡地に関しては、これからは具体的に何を作るかということに絞って進む段階にきている。この時点のワークショップがそのまま実施設計に移行するわけではなく、基本構想のためのワークショップである。次の基本設計の際は、さらに絞って進むためのワークショップになる。そこで話されたことが無駄になるということはない。各ワークショップは、どの段階のもので、何を目的にするかということの説明をうけて参加していただくと考えている。

【D委員】

- ・全国的にホールの運営は、行政的な視点が強いところは停滞しているが、基本構想・設計段階から市民が関わって作ったところは、その後のマネジメントも含めてうまくいっている。
- ・市民参画イベントとしてホールに関して、利用団体等の利用者によるワークショップを行うように書いているが今年度するのは先走りだと思う。規模が決まってきた段階で行うほうが良いと思った。

【F委員】

- ・作っている段階で、使い勝手が悪い部分を話しながら、基本構想・計画段階から一緒に沿っていけるようにしてもらえたらと思う。その上でワークショップ等さまざまなイベントを考えていただければと思う。

【K委員】

- ・ワークショップについて、さまざまな方々が対象になって当然だと思うが、とりわけ子どもたちが対象になっていると思った。ご高齢の方や障がい者団体といった方々についても意見を聞いていただきたい。
- ・ワークショップの例として大学祭でのイベントがあったが、松山には大学や専門学校を含めてたくさんの学生がいるので、多くの学生を対象に考えてみてほしい。

【L委員】

- ・まちづくりの市民参画イベントのところで、小中学校等への出前講座があるが、保護者も対象になるのか。

【事務局】

- ・学校に案内しているのは児童・生徒を対象としているが、保護者・P T Aにも機会を設けて行っていきたいと考えている。

【会長】

- ・本日は皆さんからいただいたご意見、ご提案について、市の方でも十分検討していただいて今後の駅周辺まちづくり事業に活かしてほしい。

(2) 松山駅周辺路面電車延伸計画等に関する基礎調査業務

【事務局説明】

- ・今年度もうひとつの委託業務「路面電車延伸計画等に関する基礎調査業務」に関して、今年度は、路面電車に関する過去の調査・検討内容を整理し再確認して、駅前広場への路面電車引き込み位置やルートなどの技術的要件について、主に「松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会」の「幹事会」で調査・検討を行い関係機関の技術的要件について合意を得たい。その後、駅前広場のレイアウト素案を作成していく予定である。市民参画のもと審議会でも本格的な検討が始まるのは、来年度以降になると思われる。

《議題3. その他》

【事務局説明】

- ・先ほどご意見、ご提案いただいた内容について、できる限り当事業に活かしていきたいと考えている。今後、当審議会の中でも様々なことをご報告するとともに、まちづくり全般について議論いただくことになるので、引き続きよろしく願います。

【会長】

- ・以上で【第4回 松山駅周辺まちづくり審議会】を終了する。

午後4時 閉会